
朱雀艦隊

水無瀬 桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朱雀艦隊

【Nコード】

N5632C

【作者名】

水無瀬 桜

【あらすじ】

准将ナタルウィリアムスは搭乗機インパルスシャインに乗り込んでいた。ヤマト艦長はスペンサー司令と軍本部の中央司令室にいた。

一幕 ナタル、出撃

茶髪で黒い目の准将 ナタル ウィリアムスはSEED軍第一機動艦隊所属。

長身の彼女は濃紺の軍服を着ていた。

ある日、ナタルは士官室にいた。

彼女はかつて、伝説の戦艦 シルバーウィングに乗艦していた。

ナタルの元に茶髪で蒼い眼の中尉 ジミー アリアスがやって来た。

「ウィリアムス准将、スペンサー司令から連絡で、二時間後に出撃してほしいとの事です。」

ジミーは第一機動艦隊 ウィリアムス隊の隊員。ナタルはリーダーとして彼に作戦指揮権を命じた。

「ジミー、あなたに作戦指揮権を命じます。」

ナタルの一言にジミーは啞然とした。

「チーム ウィリアムスのエースとして信頼していますよ。」

ナタルに肩を叩かれ、ジミーは礼をとった。

「ウィリアムス隊長殿のお気持ちに裏切らないよう、頑張ります。」

ジミーを見送り、ナタルは窓際に立った

「ナタル君、いいかね？」

士官室に入ってきたのはヤマト艦長だった。

「どうぞ。コーヒーで宜しいですか？」

ヤマト艦長はソファアに座り、ナタルはコーヒーカップを艦長の前に出した

「ナタル君の淹れるコーヒーは美味しいよ。カフェでバイトをしていただけの事はある。」

ナタルは軍に入隊する以前、ロベールシティのカフェでバイトをしていた。

「艦長にお褒めいただき光荣です。」

シャイなナタルは自らの淹れたコーヒーを口に運んだ。

「私がナタル君の元を訪れたのは、新しい搭乗機の件なんだ。」
ヤマト艦長の顔を見れずに、ナタルは「心得ております。」と言っ
にとどまった。

「君の専用機にスーパーインパルス一号機を授けてはどうかと、レ
イ殿下が言っておられてな。」

レイ殿下とは、ロベール公国第一殿下 レイ ロベールである。

「レイ殿下がですか？」

ナタルは驚いた声を上げた。

「そう。殿下も戦勲を讃えておられたよ。」

ヤマト艦長はナタルの顔を見ていた。

「艦長、殿下の御意志、尊重したいと存じます。」

ナタルはこのチャンスを生かしたいと思っていた。

「そうか。明日、殿下と会うから、君も来ると良い。」

ヤマト艦長と別れた後、ナタルは凜々しい顔で格納庫へ向かってい
た。

艦長は彼女の後ろ姿を見送った

「艦長、後方に敵艦です。」

副長は艦長と共に艦橋へ走って行った

艦橋へ戻り、艦長席に座った艦長は最大加速で振り切る作戦を操舵
クルーに命じた

「ジョージ・ヤマト……。ヤツは一筋縄では行かん。」

咄くのは敵軍高速艦 フェニックスのダニー艦長である。

「シルバーウィングは高速艦です。SEED軍の基地前で叩きます
か？」

木星基地前で叩く作戦を副長は提案した

「いや。モビルスーツ戦で迎え撃とう。カール、いるか？」

黒髪で蒼い目のパイロット カール・タナーは艦長や副長のいる艦
橋へやって来た

「カール・タナーです。お呼びですか？」

ダニー艦長はカールにアキを撃つ機会を与えた

「エースを撃つ機会を君に与えよう。」

カールは敬礼した

「しかし、相手方が新型機を出さないとも限りませんよ。」

副長がそう言うと、ダニーは笑った

「カール、新型機で来るなら、新型機で。だろ？」

ダニー艦長は意地悪く笑った。その頃、SEED軍のモビルスーツは敵艦を囲んでいた。

「何だと。」

副長は啞然とした

「ハリアーか。カール専用機 ジェノの出撃準備。」

艦長はきびきびと命じた。

「艦長、敵艦より熱紋です。」

接近していたのはアスラン シューマツハの専用機 セイバーだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5632c/>

朱雀艦隊

2010年10月10日04時22分発行